

平成25年度第2回小田原市生活交通ネットワーク協議会

日 時 平成26年2月24日（月）午後1時
場 所 小田原市役所 6階 601会議室

次 第

1. 開 会

2. 議 題

報告事項

- (1) 橘地域の公共交通に関するアンケート案件別調査結果について
- (2) 橘地域を運行する路線バスの変更について
- (3) バスマップの作成・配布について
- (4) バスの乗り方教室について
- (5) 銀座通り周辺におけるバス停新設等について

協議事項

- (1) 橘地域の公共交通に関するアンケート案件別調査結果を踏まえた
今後の方針について
- (2) 小田原市地域公共交通総合連携計画の事業実施状況の評価について

その他

3. 閉 会

平成25年度第2回小田原市生活交通ネットワーク協議会出席者名簿

区分	会 員		備 考
	職 名	氏 名	
バス事業者	箱根登山バス株式会社	取締役運輸部長	野村 尚廣 欠席
	伊豆箱根バス株式会社	小田原営業所長	杉山 保徳 欠席
	富士急湘南バス株式会社	常務取締役	茂木 一郎
	神奈川中央交通株式会社	運輸計画部次長	平岩 敦
タクシー事業者	社団法人神奈川県 タクシー協会小田原支部	支部長	杉山 文男 代理出席 副支部長 長谷川 義明
運転者が 組織する団体	神奈川県交通運輸産業 労働組合協議会	幹事	川上 一男
利用者・ 市民代表等	小田原市自治会総連合	曾我連合自治会長	柏木 茂高
	小田原市自治会総連合	橘北連合自治会長	植田 昭嘉
	小田原箱根商工会議所		高橋 豊房 監事
交通管理者	神奈川県小田原警察署	交通第一課長	大島 修
道路管理者	国土交通省関東地方整備局 横浜国道事務所	副所長	秋元 孝夫 欠席
	神奈川県県西土木事務所 小田原土木センター	工務担当部長	松田 和幸 欠席
	小田原市	建設部長	雨宮 謙二
学識経験者	福島大学	准教授	吉田 樹 会長
国	国土交通省関東運輸局 神奈川運輸支局	首席運輸企画専門官	久世 真
県	神奈川県	県土整備局都市部 交通企画課長	寶珠山 正和 代理出席 主事 今井 将人 監事
市	小田原市	都市部長	内藤 日出男 副会長

区分	職 名	氏 名	備 考
事務局関係	小田原市	都市部副部長	座間 亮
		都市計画課長	小澤 千香良
		都市計画課副課長	西浦 真生
		都市計画課主任	本美 大輔
		都市計画課主事	小山 和英

平成25年度第2回小田原市生活交通ネットワーク協議会座席表

スクリーン

吉田会長
(学識経験者)

内藤副会長
(小田原市)

茂木会員
(富士急湘南バス株式会社)

平岩会員
(神奈川県中央交通株式会社)

杉山会員代理
長谷川様
(社団法人神奈川県
タクシー協会小田原支部)

川上会員
(神奈川県交通運輸産業
労働組合協議会)

柏木会員
(小田原市自治会総連合)

植田会員
(小田原市自治会総連合)

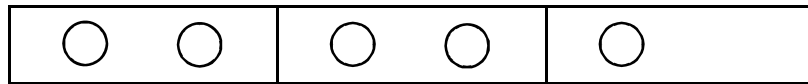
寶珠山会員代理
今井様
(神奈川県)

久世会員
(国土交通省)

雨宮会員
(小田原市)

大島会員
(神奈川県警察)

高橋会員
(小田原箱根商工会議所)



小田原市
(事務局)



傍聴者

報告事項・協議事項

1、報告事項

(1) 橘地域の公共交通に関するアンケート案件別調査結果について**【資料 2】**

事業 3 - ① - ②：橘地域を運行する路線バスの見直し

〔市民・交通事業者・行政〕 p. 27

橘地域の実情に合った路線バス等の公共交通の検討を目的に橘地域の自治会長（29名）からなる「橘公共交通検討会」が発足し、平成25年10月の第1回橘公共交通検討会では、地域の交通課題についての様々な意見交換がなされ、同11月に「橘地域の公共交通（バス交通など）に関するアンケート」を実施したものです。

(2) 橘地域を運行する路線バスの変更について**【資料 3】**

事業 3 - ①：利用目的・時間帯等に配慮した運行

〔市民・交通事業者・行政〕 p. 27

事業 4 - ②：主要バス停における共通時刻表・路線図・運賃表の掲出

〔交通事業者・行政〕 p. 32

ア. 二宮駅北口～橘団地の路線バスのルート変更

湘南神奈交バスでは、二宮町、小田原市との協議により、平成25年12月2日から新たに「二宮駅北口～釜野～橘団地系統」の路線バスの運行を開始し、これに伴い既存の「二宮駅北口～中里～橘団地系統」のダイヤ改正を実施しました。

【経過】

- ・二宮駅北口駅前広場の整備に伴い、朝夕の交通渋滞が回避できる短縮ルートが可能となり、二宮町がバス事業者へルート変更の協議を行った中で、バス事業者より既存ルート全便を短縮ルートへ変更する意向が示された。
- ・その意向を受け、小田原市と二宮町で協議を行い、既存ルートに商業施設・病院などが建ち並ぶことから、橘団地の生活交通確保のため日中の便を既存ルートで残すよう小田原市から申し入れ、受け入れられた。

イ. 橋支所前バス停の名称変更

橋支所がなくなったにもかかわらず、「橋支所前」のバス停名称として存置され、利用者等に誤解を与える恐れがあり、橋公共交通検討会の会議にて地元自治会長からの改善の依頼もあったことから、小田原市からバス事業者へ名称変更の申し入れを行い、平成26年2月3日に最寄の交差点名称と同じ「橋インター入口」に変更されました。

(3) バスマップの作成・配布について 【さかわがわ流域バスマップ】

事業4-⑤：バスマップの作成・配布〔交通事業者・行政〕 p. 34

小田原市内は、4社の路線バスが運行しており、周辺市町を跨いで運行しているものもあることから、路線バスの利用促進を目的に酒匂川流域2市5町により、平成21年度から「さかわがわ流域バスマップ」の作成・配布を行っています。

本年度は、より分かりやすく使いやすいバスマップとするため改訂を行い、1万部の配布（2市5町、観光案内所、バス事業所など）を予定しています。

【主な改善点】

- ・情報面に施設検索一覧を追加し公共施設、観光施設などの施設位置をマップ面で検索できるようにしました。
- ・マップ面の路線表示を路線別から事業者別に変更し、分かりやすさを向上させました。

(4) バスの乗り方教室について

事業7-①：児童・保護者を対象としたバスの乗り方教室

〔市民・交通事業者・行政〕 p. 37

将来の路線バス利用者である児童やその保護者を対象に、公共交通であるバスに親しんでもらい、バスへの理解と関心を高めるとともに、交通安全への理解を図るため、平成26年度にバスの乗り方教室を開催します。

小田原市内の小学校25校へ案内文を送付し、3月に応募受付を行い、希望する小学校の近隣のバス事業者に協力をお願いするものです。

必要に応じて、神奈川県バス協会で予定しているバスの乗り方教室への補助の活用、神奈川運輸支局のバリアフリー教室との連携等を図ります。

【教室内容】

- ・交通安全（死角、安全確認）
- ・乗車体験（乗降方法等）
- ・車両の説明 等

（５）銀座通り周辺におけるバス停新設等について

【資料４】

事業３－①：利用目的・時間帯等に配慮した運行

〔市民・交通事業者・行政〕 p. 27

事業４－②：主要バス停における共通時刻表・路線図・運賃表の掲出

〔交通事業者・行政〕 p. 32

平成19年12月に銀座通り周辺自治会、商店会からバス事業者へ陳情のあった、バス停の新設、通過バスの停車及び新たな要望であるバス停名称の変更について、周辺地域の利便性と回遊性を高め、中心市街地の活性化に資する取組みとして、平成26年度中の実施について協議をはじめました。

また、バス待ち環境改善のためベンチ・バス停上屋の設置について新たな要望も出されていることから、費用面を考慮し広告付き上屋の活用を検討しています。

【検討内容】

- ①「銀座通り」バス停の新設（複数事業者のバスポール一本化）
- ②「大工町」バス停通過バスの停車
- ③「銀座二丁目」から「竹の花入口」へのバス停名称変更
- ④「銀座通り」「竹の花入口」へのベンチ・バス停上屋の設置

2、協議事項

(1) 橘地域の公共交通に関するアンケート案件別調査結果を踏まえた 今後の方針について	【資料5】
--	-------

事業3-①-②：橘地域を運行する路線バスの見直し

〔市民・交通事業者・行政〕 p. 27

第2回橘公共交通検討会において、「橘地域の公共交通に関するアンケート案件別調査結果【資料2】」の報告・提案を予定しており、その後は北部と南部の2つの部会に分けて周辺住民等の参加も募り、【資料5】の方針のとおり、案件別に事業の実現可能性や優先順位等を考慮しながら検討を開始する予定です。

(2) 小田原市地域公共交通総合連携計画の事業実施状況の評価について	【資料6】
------------------------------------	-------

5-2 PDCAサイクルに基づく事業評価の実施

〔小田原市生活交通ネットワーク協議会〕 p. 40

連携計画を着実に推進するため「PDCAサイクル」に基づく評価・検証等の進行管理を実施することとなっており、各事業の実施状況は毎年度評価であることから、平成25年度の評価を行ったものです。

平成25年度 橘地域の公共交通に関するアンケート 案件別調査結果

アンケートの概要

- 1、橘タウンセンターこゆるぎへの公共交通
- 2、押切橋周辺での路線バス間の乗り継ぎ
- 3、沼代への公共交通
- 4、橘団地から県道中井羽根尾の路線バスの延伸
- 5、橘団地内の公共交通

アンケートの概要

(1) 橘タウンセンターこゆるぎ利用者アンケート

実施期間 平成25年11月11日(月)から11月17日(日)

配布数 308人

回収数 257人

回収率 83.4%

【参考】橘タウンセンター利用者数 約119人/日(アンケート期間中)

ホール等利用者数 560人(6日間実績)

住民窓口利用者数 129人(5日間実績)

(2) 住民アンケート

実施期間 平成25年11月7日(木)から11月29日(金)

配布数 3,689人

回収数 2,258人

回収率 61.2%

1、橘タウンセンターこゆるぎへの公共交通

○橘タウンセンター利用者アンケート結果（配布数 308、回収数 257、回収率 83.4%）

利用目的		
住民窓口		99 人 (38.5%)
集会室・ホール		74 人 (28.8%)
図書コーナー・子育てコーナー・その他		76 人 (29.6%)
不明		8 人 (3.1%)
来館・退館時刻		
来館者の多い時刻	9 時台	53 人 (20.6%)
	13 時台	35 人 (13.6%)
	14 時台	27 人 (10.5%)
退館者の多い時刻	11 時台	33 人 (12.8%)
	12 時台	36 人 (14.0%)
	16 時台	31 人 (12.0%)
利用頻度		
週 1 以上		92 人 (35.8%)
月 1～2 回		68 人 (26.5%)
年に数回		80 人 (31.1%)
不明		17 人 (6.6%)
交通手段		
自家用車		174 人 (67.7%)
鉄道と路線バス		2 人 (0.8%)
自動二輪車・自転車		27 人 (10.5%)
徒歩		47 人 (18.3%)
不明		7 人 (2.7%)
橘タウンセンターにバス停ができた場合の路線バス利用意向		
利用する		72 人 (28.4%)
利用しない		155 人 (60.7%)
その他		16 人 (6.2%)
不明		12 人 (4.7%)

○住民アンケート結果A～D共通（配布数3,689、回収数2,258、回収率61.2%）

旧橋支所の利用頻度		
年に1・2回以上の利用していた	1,593人	(70.6%)
ほとんど・まったく利用したことがない	563人	(24.9%)
不明	102人	(4.5%)
旧橋支所への交通手段（利用していた1,593人を対象）		
自家用車	998人	(62.6%)
路線バス	112人	(7.0%)
自動二輪車・自転車	122人	(7.7%)
徒歩	272人	(17.1%)
その他	1人	(0.1%)
不明	88人	(5.5%)
橋タウンセンターこゆるぎへの公共交通の必要性		
自動車を利用するので必要ない	513人	(22.7%)
赤字が多くても自動車を利用できない人もいるから税金で補助してでも必要	377人	(16.7%)
赤字額が少ないなら税金で補助して必要	202人	(8.9%)
運行本数が少なくてもよいから必要	804人	(35.6%)
その他	159人	(7.0%)
不明	203人	(9.0%)
		公共交通が必要 1,382人 (61.2%)
橋タウンセンターこゆるぎへの公共交通が導入された場合の利用意向		
利用する	742人	(32.9%)
利用しない	672人	(29.8%)
どちらともいえない	718人	(31.8%)
不明	125人	(5.5%)

○アンケート結果考察

【橘タウンセンター利用者アンケート結果】

- ・橘タウンセンターの来館者数は9時台 20.6% (53人)、13時台 13.6% (35人)、14時台 10.5% (27人)、退館者数は11時台 12.8% (33人)、12時台 14.0% (36人)、16時台 12.0% (31人) に多い。
- ・橘タウンセンターへの交通手段は自家用車が 67.7% (174人) で、路線バスは 0.8% (2人) であったが、橘タウンセンターにバス停が設置された場合、28.4% (72人) の人が路線バスの利用の意向を持っている。

【住民アンケート結果】

- ・橘地域の 70.6% (1,593人) の人が旧橘支所を利用しており、旧橘支所への移動手段は自家用車が 62.7% (998人) で、路線バスは 7% (112人) であった。移転した橘タウンセンターへの公共交通の導入について、61.2% (1,382人) が必要と考えており、32.9% (742人) が導入された公共交通の利用意向を持っている。

【考察】

- ・橘タウンセンターにバス停が設置された場合、橘タウンセンターの1日の利用者 119人に対し、28.4% (34人) が路線バスの利用意向を持っており、アンケートの分担率で計算すると来退館の多い、9時台が8人程度、11、12、13、16時台がそれぞれ6人程度の乗降客数が想定される。また、一般的には利用意向に対して実際の利用者数は下回る場合が多いことから、時間帯を絞った運行を行っても、橘タウンセンター単独での路線バスの導入は採算性の面で困難と考えられる。
- ・そこで、隣接する西湘テクノパークの企業を対象に、企業バスや自家用車での通勤者を路線バス利用へ転換することが可能かどうか、アンケート調査を実施し需要を把握するとともに、橘タウンセンター利用時間帯と西湘テクノパーク通勤時間帯等を考慮し、既存路線バスの特定便を橘タウンセンター方面に迂回させるなどの方策が採れないか、バス事業者と具体的に検討を進めることとする。
- ・また、橘タウンセンター及び西湘テクノパーク方面へ既存の路線を迂回させる場合のルートについては、既存のバス停（鐘藪バス停）を通過するルートも想定されることから、通過するバス停の利用者と橘タウンセンター利用及び西湘テクノパーク従業員の通勤時の想定されるバス利用者の人数を比較し、採算面等も含め、地域の利便性の向上に資する運行をバス事業者とも検証していくこととする。

2、押切橋周辺での路線バス間の乗り継ぎ(アンケートA～D共通)

○アンケート結果 (配布数 3,689、回収数 2,258、回収率 61.2%)

押切橋周辺でどのような対策を行ったらよいか【複数回答可】

それぞれの路線のバス停を近づけ、路線バス間の乗り継ぎがしやすいようにする	956人(42.3%)
乗り継ぎ割引などを導入し、路線バスを乗り継いでも運賃が高くないようにする	922人(40.8%)
待ち時間を快適にするため、ベンチや上屋を設置する	624人(27.6%)
バスを利用しないのでわからない	527人(23.3%)
乗り継ぎの対策を行わない	175人(7.5%)
その他	124人(5.5%)

○アンケート結果考察

【結果】

- ・バス停を近づける対策の実施を求める割合が 42.3% (956人) と高く、次いで、乗り継ぎの運賃抵抗をなくすための乗り継ぎ割引の導入を求める割合が 40.8% (922人) と高かった。

【考察】

- ・比奈窪～国府津駅の路線が日中の午前 10 時台～午後 1 時台の時間帯に運行されていないことから、既存の比奈窪～二宮駅、平塚駅～国府津駅の路線を有効利用して、橘地域と国府津駅の移動性を確保するため、両路線が枝分かれする押切橋周辺の乗り継ぎ円滑化は重要であると考えられる。
- ・そのため、まずは、実施を求める割合が高く、費用をかけずに実施期待できる「バス停を移設し近づける対策」を早期に進めるべきであると考え、現状のバス停周辺の歩道の形態等を確認し、移設に向け、バス事業者、地先地権者等と調整していくこととする。(現状、押切バス停は国府津駅～平塚駅と国府津駅～比奈窪の路線は同一箇所、比奈窪～二宮駅の路線は 150～300m 程度離れた箇所にある。移設の際には、道路横断の安全性も考慮する必要がある。)
- ・将来的には、バス待ち環境の改善のため、上屋やベンチ等の設置を検討する必要があると考えるが、設置費用が伴うことから、現在検討している広告付き上屋の導入などの検討も必要となる。
- ・また、二番目に実施を求める割合が高かった「乗り継ぎ割引制度」については、バス事業者と導入に関する協議を行うとともに、先進事例を参考に IC カードシステムの活用の可能性を検討することとする。
- ・長期的には、押切橋周辺に乗り継ぎ拠点としてのロータリーを整備することや長大路線を東西、南北方向のピストン輸送の路線へ再編し運行効率を高めることなど、バス事業者と課題について検討していくこととする。

3、沼代への公共交通(アンケートB 明沢・沼代自治会対象)

○アンケート結果 (配布数 75、回収数 67、回収率 89.3%)

外出時に交通手段がなく困っているか		
非常に困っている	13人 (19.4%)	} 困っている 24人 (35.8%)
やや困っている	11人 (16.4%)	
特に困っていない	30人 (44.8%)	
その他	4人 (6.0%)	
不明	9人 (13.4%)	
沼代への新たな公共交通の導入の必要性		
お金がかかっても税金等で補助し、導入すべき	13人 (19.4%)	} 導入が必要 50人 (74.6%)
お金を必要としないならば税金等で補助し、導入すべき	16人 (23.9%)	
現在は必要ないが、今後導入を検討してほしい	21人 (31.3%)	
現在・将来とも利用しないので必要ない	8人 (11.9%)	
その他	2人 (3.0%)	
不明	7人 (10.4%)	
沼代への新たな公共交通が導入された場合の利用意向		
利用する	32人 (47.8%)	
利用しない	7人 (10.4%)	
どちらともいえない	21人 (31.3%)	
不明	7人 (10.4%)	
導入後、採算性の低い場合の維持方法について		
運行本数を減らし、運賃収入に見合った運行で維持	28人 (41.8%)	
運賃値上げをして運行維持	3人 (4.5%)	
市の負担及び自治会などの地域で運行経費の一部を負担し運行維持	9人 (13.4%)	
市の負担だけで運行維持	7人 (10.4%)	
赤字なら運行継続はしなくてよい	8人 (11.9%)	
その他	2人 (3.0%)	
不明	10人 (14.9%)	

○アンケート結果考察

【結果】

- ・現在、外出時の交通手段に困っている人は、全体の 35.8% (24 人) であったが、将来的な不安等を考え、新たな公共交通の導入を求める人（検討も含む）は、全体の 74.6% (50 人) であり、導入後の利用意向については、現時点では、全体の 47.8% (32 人) であった。

【考察】

- ・新たな公共交通の導入の必要性は高いものの、一団の集落でありながら 75 世帯と住民が少ないことから利用者数は限られるが、最寄のバス停から 1 k m以上離れた区域も存在し、国の地域公共交通確保維持事業 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金の補助対象系統の要件に該当する可能性があるため、検証は必要であるが路線バスでの対応は、低需要や採算性の面から持続困難と考えられる。
- ・そこで、需要の見込めない地域に対応した、乗り合いタクシーも含めた、公共交通導入の先進事例を研究していくこととする。
- ・先進事例の研究にあたり、既存の路線バスルートとの競合なども考慮していくこととする。

4、橘団地から県道中井羽根尾の路線バスの延伸 （アンケートC、D共通 小船第1区、小船第2区、小竹下、 小竹打越、小竹坂呂、小竹脇橘団地共同住宅、橘団地一般住宅、 さつきが丘、湘南橘台住宅、若葉台）

○アンケート結果（配布数 1495、回収数 925、回収率 61.9%）

路線バスの延伸の必要性	
延伸する必要がある	402人(43.4%)
延伸の必要はない	116人(12.5%)
バスをあまり利用しないのでわからない	291人(31.4%)
その他	31人(3.3%)
不明	87人(9.4%)
路線バスを延伸した場合の利用意向	
利用する	312人(33.7%)
路線バスを延伸しても利用しない	216人(23.3%)
どちらともいえない	283人(30.5%)
不明	116人(12.5%)

○アンケート結果考察

【結果】

- ・路線バスの延伸の必要性を 43.4%（402人）の人が感じており、延伸した場合の利用意向は、33.7%（312人）の人が示している。
- ・また、対象自治会の日頃の路線バス利用状況としては、橘団地の全ての5自治会（743世帯）で、週1回以上路線バスを利用する割合が30%以上となっており、橘地域全体の27.3%と比べ路線バス利用割合が高い地域である。

【考察】

- ・延伸を求める割合も高く、延伸した場合に利用する割合も高いことから、本格運行のための実証運行等に向けた具体的な検討を行っていくこととする。
- ・また、延伸を行った場合に、県道中井羽根尾線沿いの「坂呂橋」バス停が乗継拠点となることから、ベンチや上屋設置などバス待ち環境の整備についても併せて検討していく必要がある。

5、橋団地内の公共交通 (アンケートD 橋団地共同住宅、橋団地一般住宅、さつきが丘、 湘南橋台住宅、若葉台)

○アンケート結果 (配布数 743、回収数 437、回収率 58.8%)

バスを利用するのに困っているか		
自宅からバス停が離れており、また、坂がきついで困っている	35人 (8.0%)	} 困っていない 322人 (73.4%)
バスを利用しているがあまり困っていない	187人 (42.6%)	
バスをあまり利用していないので、特に困っていない	135人 (30.8%)	
その他	47人 (10.7%)	
不明	35人 (8.0%)	
橋団地内の公共交通について		
団地内を周るように路線バスの運行を見直してもらいたい	60人 (13.7%)	} 団地内の 公共交通が 必要 194人 (44.2%)
団地内を巡回する新たな公共交通をどんなにお金がかかっても税金等で補助し導入してほしい	15人 (3.4%)	
団地内を巡回する新たな公共交通をあまり多くのお金を必要としないならば税金等で補助し導入してほしい	119人 (27.1%)	
現在将来とも利用しないと思うので導入の必要はない	115人 (26.2%)	
その他	69人 (15.7%)	
不明	61人 (13.9%)	
橋団地内の新たな公共交通が導入された場合の利用意向		
利用する	185人 (42.1%)	
利用しない	76人 (17.3%)	
どちらともいえない	146人 (33.3%)	
不明	32人 (7.3%)	

○アンケート結果考察

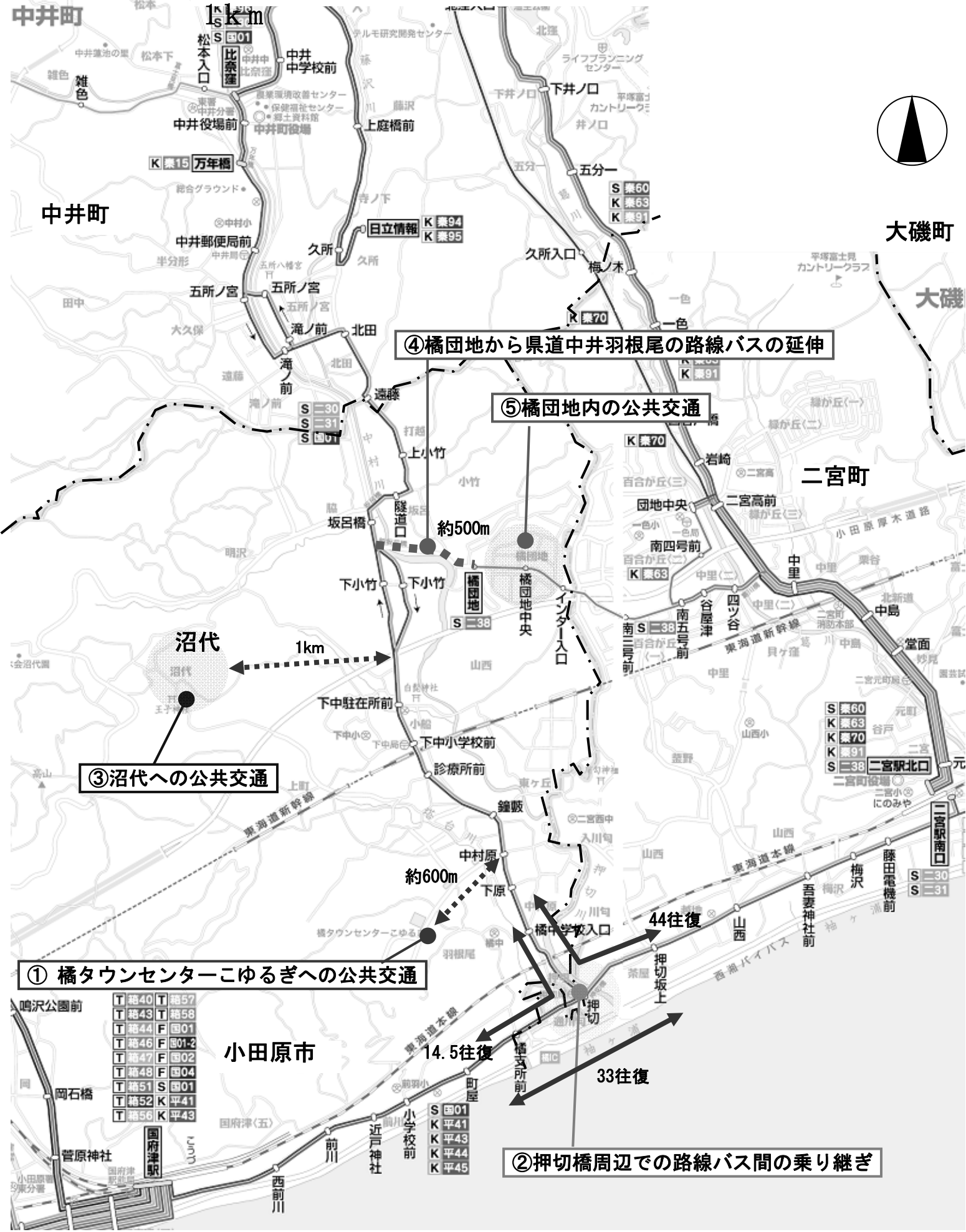
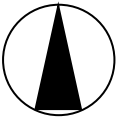
【結果】

- ・現状のバス利用に際して、バス停が遠いなどの理由により困っている割合は 8% (35 人)、困っていない割合は、73.4% (322 人) であった。
- ・将来的な団地内の公共交通については、運行形態、費用を考慮せずに、44.2% (194 人) が求めている。

【考察】

- ・将来的に、団地内の公共交通の導入を求める人が多いが、現状では、必要ないと考えている人が多数を占めているため、早期に団地内の公共交通の導入は求められていないものと考えられる。
- ・ただし、バス停から 300m以上離れた区域が存在する若葉台自治会では、最寄りのバス停まで遠いなど困っている割合が高いため、必要に応じ、沼代地区における研究を参考にしていくこととする。

橋地域の公共交通に関するアンケート位置図



③ 沼代への公共交通

① 橋タウンセンターこゆるぎへの公共交通

④ 橋団地から県道中井羽根尾の路線バスの延伸

⑤ 橋団地内の公共交通

② 押切橋周辺での路線バス間の乗り継ぎ

T 箱40	T 箱57
T 箱43	T 箱58
T 箱44	F 国01
T 箱46	F 国01-2
T 箱47	F 国02
T 箱48	F 国04
T 箱51	S 国01
T 箱52	K 平41
T 箱56	K 平43

S 国01
K 平41
K 平43
K 平44
K 平45

S 箱60
K 箱63
K 箱70
K 箱91
S 箱38

S 箱60
K 箱63
K 箱70
K 箱91
S 箱38

小田原市

二宮町

大磯町

大磯

中井町

中井町

沼代

約500m

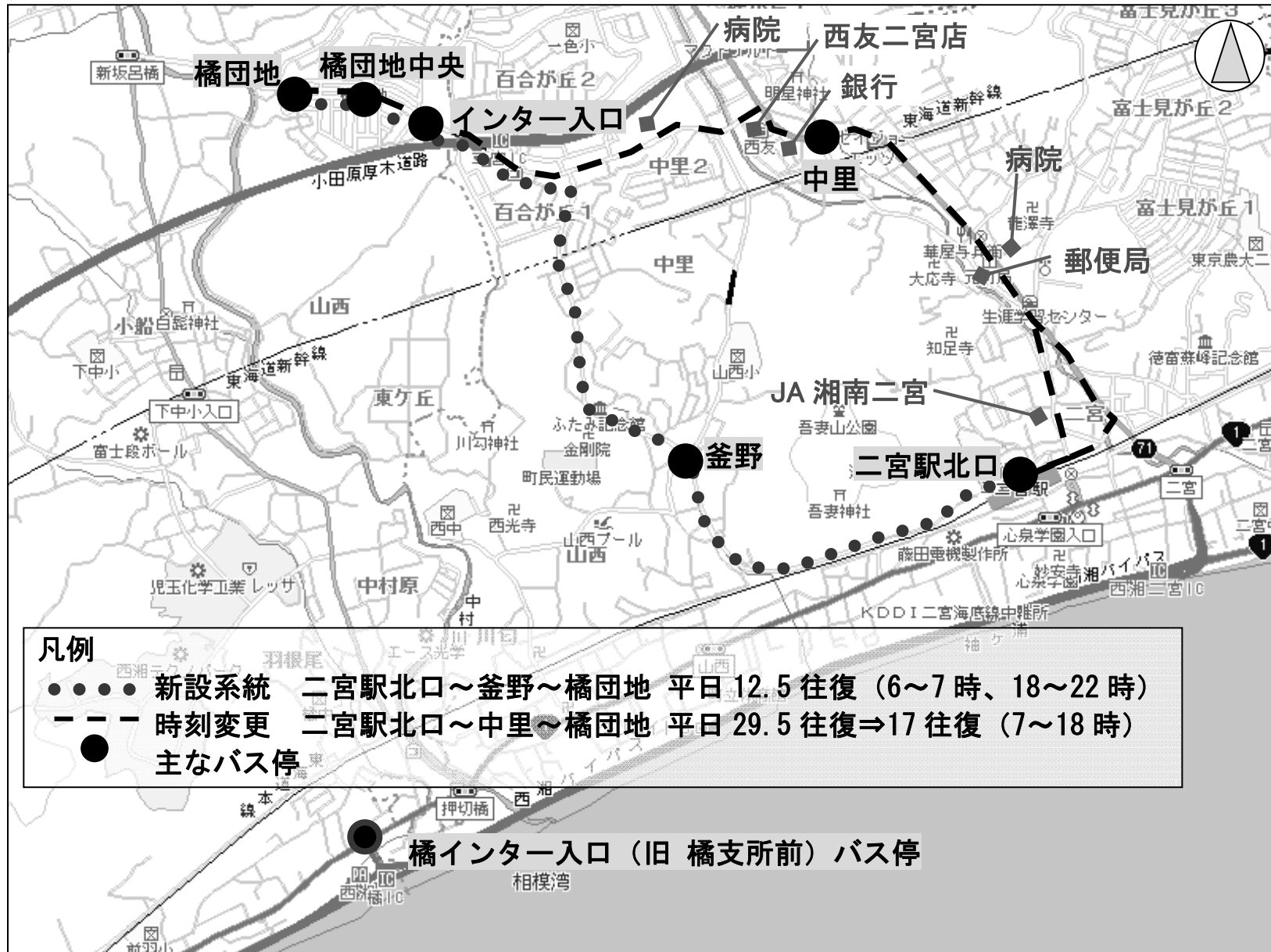
約600m

44往復

33往復

14.5往復

橋地域を運行する路線バスの変更



銀座通り周辺におけるバス停新設等



橘地域の公共交通に関するアンケート案件別調査結果を踏まえた 今後の方針（案）

○案件別の調査結果、事業の実現可能性、及び優先順位等を考慮し、以下のとおり、順次取り組んでいくこととする。

1、橘タウンセンターこゆるぎへの公共交通

- ・隣接する西湘テクノパーク内の事業者及び従業員に対し、アンケート調査の実施
- ・既存路線バスの特定便をタウンセンター方面に迂回させるなどの方策の検討
 - ▶タウンセンター方面へ既存の路線を迂回させる場合のバス事業者の採算面及び地域の利便性の向上への効果の検証

2、押切橋周辺での路線バス間の乗り継ぎ

- ・既存の比奈窪～二宮駅、平塚駅～国府津駅の路線を有効利用した、橘地域と国府津駅間の移動性の確保の検討
- ・押切バス停の移設・整備
 - ▶移設に向けたバス事業者、地先地権者等との調整
 - ▶移設後のバス待ち環境の改善のため、上屋やベンチ等の設置検討
- ・「乗り継ぎ割引制度」の導入に関するバス事業者等との協議
- ・乗り継ぎ拠点としてのロータリー整備の検討
- ・長大路線の分割によるピストン輸送の路線への再編の検討

3、橘団地から県道中井羽根尾の路線バスの延伸

- ・延伸の実証運行等に向けた具体的な検討
- ・延伸後の乗継拠点に係るベンチや上屋設置などバス待ち環境の整備の検討

4、沼代への公共交通

5、橘団地内の公共交通

- ・バス不便地域に対応した公共交通導入の研究
 - ▶地域を主体としたNPO法人設立等の先進事例の研究
 - ▶既存路線バスルートとの競合等課題の研究

平成25年度 小田原市地域公共交通総合連携計画の事業実施状況の評価(案)

資料6

事業番号	事業名	実施主体	短期 (平成27年度)	中長期 (平成34年度)	事業実施状況	事業実施評価 (平成25年度)	
1	主軸路線の位置づけ・主要施設へのアクセス向上	交通事業者・行政	協議・実証運行等	実施	・小田原駅周辺循環バス導入についてバス事業者等と協議中	B	
優先 2	乗継環境の円滑化	①ダイヤの改善	交通事業者・行政	協議後、一部実施	実施	・鉄道事業者へのダイヤ改正情報の事前提供依頼	B
		②機能・重要度に応じた乗継拠点の整備	交通事業者・行政	協議後、順次整備	順次整備	・銀座通り周辺バス停の上屋・ベンチの設置について周辺自治会、商店会、バス事業者、広告事業者各々と協議中	B
重点 3	ニーズに応じた路線バスの改善	①利用目的・時間帯等に配慮した運行	交通事業者・行政	協議・実証運行等	実施	・バス停の新規設置(富士急2箇所) ・路線バスのルート変更(神奈交1路線) ・橋地域を運行する路線バスの見直し等の検討・協議 (橋公共交通検討会の設置開催、橋地域住民アンケート調査の実施) ・銀座通り周辺バス停新設の協議中(バス停新設、バス待ち環境等について) ・小田原駅周辺循環バス導入についてバス事業者等と協議中(再掲)	B
		②おでかけ品質確保・向上のためのルールづくり	市民・交通事業者・行政	協議後、一部実施	継続的实施		C
最優先 4	分かりやすい情報提供	①バス停・行き先案内等の統一化	交通事業者・行政	協議後、一部実施	実施		C
		②主要バス停における共通時刻表・路線図・運賃表の掲出	交通事業者・行政	協議後、一部実施	実施	・バス停名称の変更(神奈中1箇所) 2月3日 ・銀座通り周辺バス停新設の協議中(バス停新設、バス待ち環境等について)(再掲)	A
		③小田原駅における案内サインの改善・案内所の一元化	交通事業者・行政	協議後、順次整備	順次整備		C
		④駅前広場のレイアウト等の見直し	交通事業者・行政	協議後、順次整備	順次整備	・小田原駅西口広場のレイアウト見直しについてバス事業者、道路管理者と協議中	B
		⑤バスマップの作成・配布	交通事業者・行政	継続的实施	継続的实施	・バスマップの作成・配布(2月27日配布予定)	A
		⑥インターネットの活用等による情報提供の充実	交通事業者・行政	協議後、実施	継続的实施	・市ホームページへのバス事業者からのお知らせの掲載(箱根登山1件、神奈中2件)	A
5	バリアフリー化の促進	①ノンステップバス・UDタクシーの導入推進	交通事業者・行政	継続的实施	継続的实施	・ノンステップバスの導入(箱根登山バス5台)	A
		②バス停・バス停までのルートのバリアフリー化	交通事業者・行政	協議後、順次整備	順次整備	・久野車庫前バス停の安全対策実施(伊豆箱根1箇所)	A
6	路線バスの走行環境の向上	①駅前広場における路線バスの優先性の確保等	交通事業者・行政	協議後、順次整備	順次整備	・小田原駅西口広場のレイアウト見直しについてバス事業者、道路管理者各々と協議中(再掲)	B
		②路線バス走行環境を支援する施策の展開	交通事業者・行政	協議、実証実験等	実施		C
7	利用促進・交通需要マネジメント	①児童・保護者を対象としたバスの乗り方教室、児童作品の車内展示等	市民・交通事業者・行政	協議後、一部実施	実施	・バスの乗り方教室実施小学校の募集開始(2月末予定)	B
		②商業施設・公共施設と連携した特典サービスの実施等	企業・交通事業者・行政	協議後、一部実施	実施	・銀座通り周辺商店会と路線バスのタイアップについて周辺商店会と協議中	B
		③企業と連携したエコ通勤の推進等	企業・交通事業者・行政	協議後、一部実施	実施	・西湘テクノパーク企業アンケート調査の実施(年度内実施予定)	B

凡例 A:実施 B:協議・検討中 C:未実施

全体評価

バスマップ

バス路線案内

～小田原市・南足柄市～
～中井町・大井町・相模原市・山北町・開成町～



さかわがわ流域バスマップの使い方

このバスマップには市役所など施設の場所を探せる「施設検索一覧表」や、主要な駅のバスのりば案内を掲載しています。「行きたい場所」があるからわからない、「うちの近所のバス停」はどのバスが通っているかわからないなどの場合にも、以下の方法で探すことができます。是非、探してバスをご利用ください。

1 行きたい施設の場所を探すとき

- 1) ガイド面の「施設検索一覧表」で探したい施設の名前を見て、アルファベットと数字を確認します。
- 2) マップ面の外枠に英数字が記載されているので、交差する場所にある施設を確認してください。施設を見つけたら、近隣のバス停や、そこを通る路線バスが分かれます。

2 バス停を通っている路線バスを探すとき

- 1) マップ面で、探したいバス停を見ます。
 - 2) バスを運行する事業者ごとに路線の色を分けてあるので、(例)箱根登山バスは赤い色を見れば、どの会社のバスが通っているのかが分かります。
- 小田原駅などバス路線が多く乗り入れる場合は、ガイド面「主要のりばのご案内」のりばや経路など詳細な案内があります。

バス事業者のご案内

箱根登山バス株式会社 <http://www.hakone-tozanbus.co.jp>

本社 電話 0465-35-1271 小田原営業所 0465-22-1124 小田原営業所 1-3(小田原駅前)0465-22-1124 小田原営業所 1-3(小田原駅前)0465-22-1124 小田原営業所 1-3(小田原駅前)0465-22-1124

伊豆箱根バス株式会社 <http://www.iuhakone.co.jp>

本社 電話 0465-35-1271 小田原営業所 0465-22-1124 小田原営業所 1-3(小田原駅前)0465-22-1124 小田原営業所 1-3(小田原駅前)0465-22-1124

富士急湘南バス株式会社 <http://www.fujiyui.co.jp/shonan/>

本社 電話 0465-42-1361 富士急営業所 0465-42-1362 富士急営業所 0465-42-1364 富士急営業所 0465-42-1364 富士急営業所 0465-22-4482

神奈川中央交通株式会社 <http://www.kanai-ctc.co.jp>

本社 電話 0465-55-7700 神奈川営業所 0463-81-1803 神奈川営業所 0463-81-1803

バスをご利用の皆さまへ

バスは私たちの生活にとって大切な移動手段の一つです。バスの利用は年々増加しています。これからは、バスがもっと便利に利用できるように、バス路線の維持は必要不可欠です。維持は自動車やバスを利用している方も、例え月に一度だけでもバスを利用してみませんか。車を運転しながら乗るのとは違った景色に出会えるかもしれません。乗客が少なくてバスを利用しても大丈夫です。バス路線の維持や発展につながるのです。

施設検索一覧表

施設名	施設種別	施設種別	施設種別	施設種別
山北町立図書館	C-1	山北町立図書館	C-1	山北町立図書館
山北町立図書館	C-1	山北町立図書館	C-1	山北町立図書館
山北町立図書館	C-1	山北町立図書館	C-1	山北町立図書館
山北町立図書館	C-1	山北町立図書館	C-1	山北町立図書館
山北町立図書館	C-1	山北町立図書館	C-1	山北町立図書館

夜間高速バスのご案内

路線名	出発地	到着地	出発時間	到着時間
山北町内循環バス	山北町	山北町	7:00	21:00
山北町内循環バス	山北町	山北町	7:00	21:00
山北町内循環バス	山北町	山北町	7:00	21:00

中井ふれあいバス

中井町では、公共交通機関の利便性を高めるため、中井町内を循環する「中井ふれあいバス」を運行しています。利用条件、運行地域、運行時間、利用料金、予約受付、利用方法などについて詳しく案内しています。

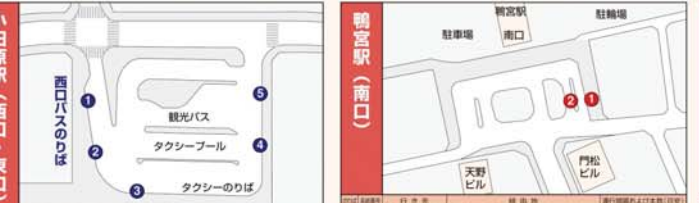
山北町内循環バスのご案内

路線名	乗車回数	乗車回数	乗車回数	乗車回数
山北町内循環バス	100	100	100	100
山北町内循環バス	100	100	100	100
山北町内循環バス	100	100	100	100

PASMOのご案内

すべての一般路線バスでPASMOが使える。PASMO (Suica) が使える。PASMO (Suica) が使える。PASMO (Suica) が使える。

主要のりばのご案内



お得な運賃・サービスのご案内

箱根登山バス
半額利用用「ハーフ6E」
7歳以上の小学生バス
6ヶ月間 5,000円
6ヶ月間 5,000円

伊豆箱根バス
半額利用用「ハーフ6E」
7歳以上の小学生バス
6ヶ月間 5,000円
6ヶ月間 5,000円

箱根登山バス
半額利用用「ハーフ6E」
7歳以上の小学生バス
6ヶ月間 5,000円
6ヶ月間 5,000円

箱根登山バス
半額利用用「ハーフ6E」
7歳以上の小学生バス
6ヶ月間 5,000円
6ヶ月間 5,000円

箱根登山バス
半額利用用「ハーフ6E」
7歳以上の小学生バス
6ヶ月間 5,000円
6ヶ月間 5,000円

箱根登山バス
半額利用用「ハーフ6E」
7歳以上の小学生バス
6ヶ月間 5,000円
6ヶ月間 5,000円

箱根登山バス
半額利用用「ハーフ6E」
7歳以上の小学生バス
6ヶ月間 5,000円
6ヶ月間 5,000円

箱根登山バス
半額利用用「ハーフ6E」
7歳以上の小学生バス
6ヶ月間 5,000円
6ヶ月間 5,000円

箱根登山バス
半額利用用「ハーフ6E」
7歳以上の小学生バス
6ヶ月間 5,000円
6ヶ月間 5,000円

箱根登山バス
半額利用用「ハーフ6E」
7歳以上の小学生バス
6ヶ月間 5,000円
6ヶ月間 5,000円

箱根登山バス
半額利用用「ハーフ6E」
7歳以上の小学生バス
6ヶ月間 5,000円
6ヶ月間 5,000円

路線バスの車両カラー



路線バスの乗り方

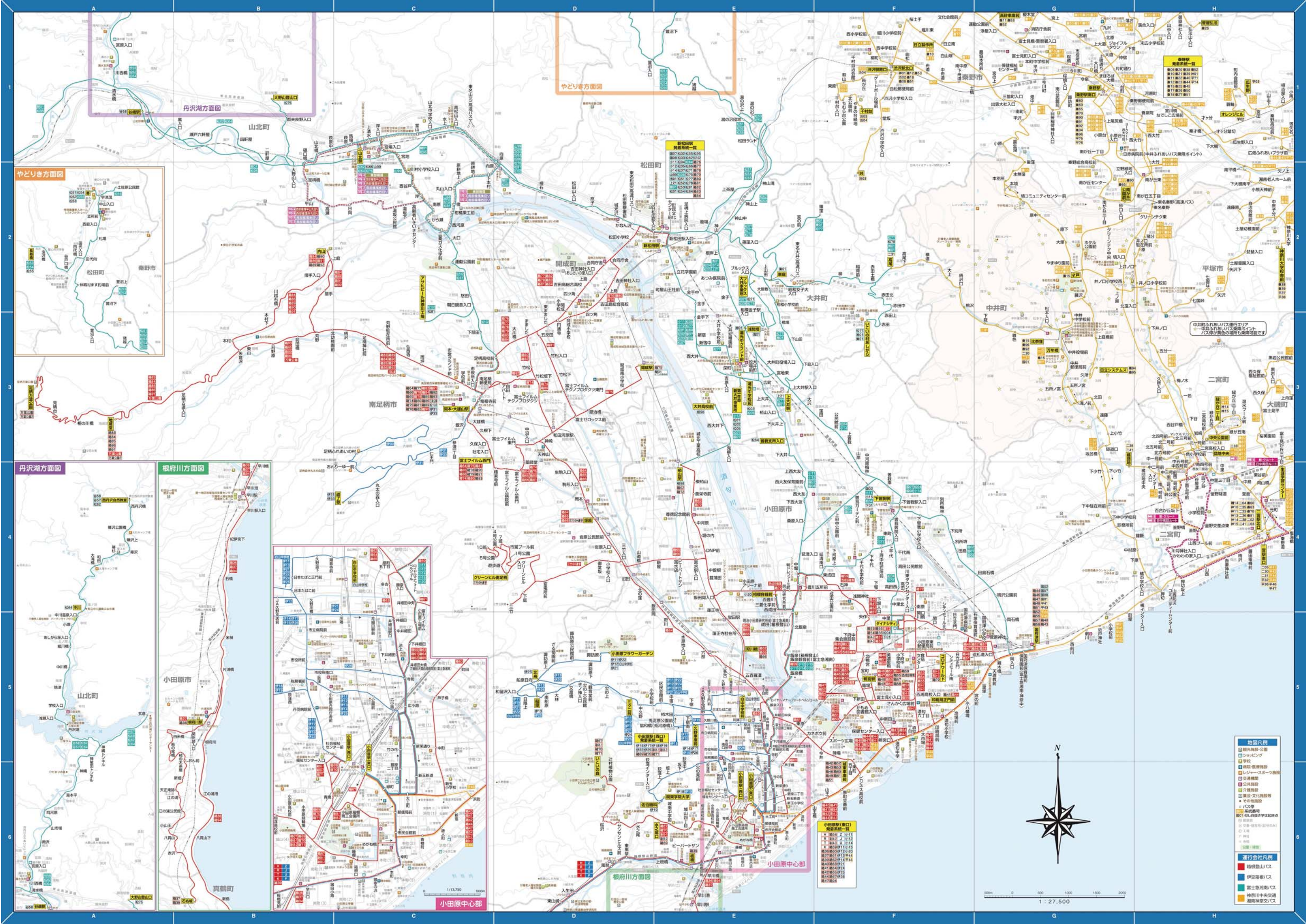
乗降方法
現金の場合
PASMO/Suicaの場合

乗車時
1. 乗車時
2. 車内
3. 降車時

降る際は、バスが完全にとまるまでお待ちください。

箱根方面バス路線図





やどりき方面図

丹沢湖方面図

やどりき方面図

丹沢湖方面図

根府川方面図

小田原中心部

- 地物凡例**
- 国土地理院
 - ショッピング
 - 学校
 - 病院・医療施設
 - レジャースポーツ施設
 - 交通機関
 - 公共施設
 - 公園
 - 商業施設
 - 文化施設等
 - その他施設
- 運行会社凡例**
- JR
 - 東海道新幹線
 - 伊豆箱根バス
 - 富士急バス
 - 神奈川中央交通
 - 湘南神奈川バス



1 : 27,500